

研究員 NOW!! No.1 ~ 研究計画書が完成しました ~

ホームページに載せていただいた
研究計画書もぜひ御覧ください!

研究テーマ「持続可能な社会の在り方を考える子ども」とは、SDGsで示されているような地球規模の諸課題について、ただ理解するだけでなく、社会的事象の特色や意味など社会の中で使うことができる応用性や汎用性のある知識を生かして、持続可能な社会の達成に向けて考える子どもです。

このように考える子どもを育成するためには、社会科のカリキュラムに「持続可能な社会に向けて」という視点を取り入れる必要があると考えます。そこで、国立教育政策研究所が示す「持続可能な社会をつくる構成概念」を教材に取り入れることで、持続可能な社会をつくるためには「どのようなことが大切か」という理解を深めることができますようにします。 【笠東小 田中 隆晃】



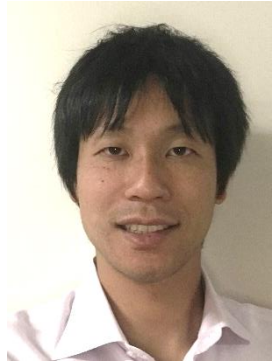
「主体的に問題解決しようとする児童が育つ社会科学習」を主題に、根拠を伴った予想を基に見通しをもって学習を進める中で、学習を振り返ることを通して自らの学習を調整しながら、問題解決に向かうことができる児童を育てることを目指します。

既習知識を活用して学習問題に対する予想を根拠の伴った仮説へと高めることで、調べる内容や方法が明確になり、学習の見通しをもつことができますようにします。また、仮説の検証に向けて学習を進める中で自らの学習について自己評価することで、次の学習の見通しをもち、学習を調整しながら問題解決に向かうことができますようにします。 【天子田小 永瀬 智仁】

「社会の課題へのよりよい解決策を考える子どもが育つ社会科学習」を主題として、社会の課題に対する現在の取組を評価し、シックスハット法の考え方を取り入れた話し合い活動を行うことを通して、様々な立場にとってよりよい解決策を考えることのできる子どもを育てることを目指します。

エドワード・デボノ氏の思考法に着目し、既存の解決策で解決できるかどうか三つの項目で評価します。評価したことを基に、決められた手順に沿って話し合いを進めることで、改善点を克服した解決策を考えることができますようにします。 【北一社小 勝田 洋光】





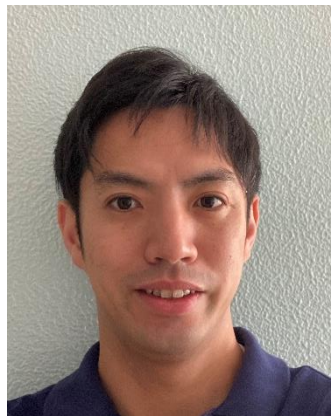
「社会の構造を捉え、よりよい社会を考える生徒が育つ社会科学習」をテーマに、研究を進めています。社会的事象がどのような構造で成り立っているのか、「つながり」に注目して全体を俯瞰する『システム思考』の要素を取り入れ、「つながり」を可視化するウェビングマップやループ図を活用して、社会的事象の構造を理解できることを目指します。可視化した図を根拠にして、社会問題に対する話し合い活動を設定することで、主題に迫っていきます。

【富士中 山本 亮介】

「多様な考えを認め合い、社会を創造することができる生徒が育つ社会科学習」を主題として、社会的課題について、根拠をもってより望ましい未来の社会について考えを述べることを目指します。

学習課題に対する自分の考えを、調べて得た根拠（事実やデータ）とそこから考えた主張、その主張の根拠となる理由を可視化する「考えプロセスシート」（ツールミン・モデルを基にしたシート）にまとめます。そして、それを用いて他者と対話することで、主題に迫っていきます。

【天神山中 服部 樹】



「社会の諸課題の解決策を主体的に考える生徒が育つ社会科学習」をテーマに研究を進めます。まず、学習課題を提示し、生徒は学習課題の解決策を考えるために、学習計画を立て、それに基づいて学習を進めていきます。計画を立てることが難しい生徒に対する支援として多様なプリントを用意し、その中から生徒自身が興味・関心のあるプリントを選べるようにすることで、どの生徒も主体的に学習を進められるようにします。その後の討論活動では、視点や立場を意識させていくことで、自ら学び方を考えて学習を進め、多面的・多角的に考察した上で、より望ましい解決策を選択・判断することができる生徒の育成を目指します。

【伊勢山中 大塚 基央】

本年度は、充実した研究員研修の様子をこの「研究員NOW!!」で同好会の皆様にお伝えします。毎号お読みいただくと幸いです。

令和5年度 名古屋市教育研究員一同